

高校教育に関する県民意識調査 【県民対象】

宮城県教育委員会では、平成13年3月に策定した「県立高校将来構想」（平成13～22年度）に基づいて活力ある高校教育の実現に向け、魅力ある高校づくりや生徒数の減少にも対応した高校の整備再編などの高校教育改革に取り組んでいるところです。

しかし、この県立高校将来構想は、平成22年度で計画期間の終期を迎えることから、今後も少子化に伴い進展する生徒減少や産業構造の変化などの高校教育を取り巻く環境の変化に的確に対応していくために、平成23年度以降の県立高校の配置を含めてその在り方を示す新たな県立高校将来構想の策定に着手したところです。

この新たな県立高校将来構想は、本県の次世代を育成する重要な方針の一つとなりますことから、その策定に当たりましては、広く県内の中・高校生及びその保護者並びに一般の県民の方々などのご意見やお考えをうかがいながら進めてまいりたいと考えております。

つきましては、皆様には、大変お忙しいところ恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。

なお、ご回答は無記名とし、調査結果は統計的に処理しますので、個人の考えが特定されることはありません。また、調査目的以外には利用しませんので、ありのままのご意見をご記入ください。

◆ 回答の方法

- ◎ 質問は**全部で23問(1～23)あります**。説明文をよく読んでお答えください。
- ◎ 回答用紙はマークシートになっています。選んだ番号の横にある「○」をHB以上のできるだけ濃い鉛筆で、マーク(黒くぬりつぶす)してください。
訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。

< 例 >

質問 (1) あなたは、どの季節が一番好きですか。一つだけお選びください。

- ① 春
- ② 夏
- ③ 秋
- ④ 冬

「 ③ 秋 」を選択する場合は次のようにマークしてください。

回答 (1)

○1: ○2: ●3: ○4:

◆ ご記入いただいた回答用紙について

- ◎ ご記入いただいた回答用紙は、同封の返信用封筒に入れ、11月18日(火)までに、切手を貼らずにそのままポストに投函してください。

調査に関する問い合わせはこちらまでお願いします。



宮城県教育庁教育企画室

〒980-8423

宮城県仙台市青葉区本町3-8-1

電 話 022-211-3617

ファクシミリ 022-211-3699

電子メール kyoikupe@pref.miyagi.jp

あなたご自身のことについてうかがいます。

(1) あなたの年齢をお聞かせください。

- ① 20代
- ② 30代
- ③ 40代
- ④ 50代
- ⑤ 60歳以上

(2) あなたの性別をお聞かせください。

- ① 男
- ② 女

(3) あなたのお住まいをお聞かせください。

- ① 仙南地区（白石市・角田市・刈田郡・柴田郡・伊具郡）
- ② 仙台市
- ③ 仙台市を除く仙塩地区（塩竈市・名取市・多賀城市・岩沼市・亶理郡・宮城郡・黒川郡）
- ④ 大崎地区（大崎市・加美郡・遠田郡）
- ⑤ 栗原地区（栗原市）
- ⑥ 登米地区（登米市）
- ⑦ 石巻地区（石巻市・東松島市・牡鹿郡）
- ⑧ 気仙沼・本吉地区（気仙沼市・本吉郡）

(4) あなたの世帯主のお仕事についておうかがいします。あなたの世帯主はどの産業分野に従事していますか。（複数の業種にまたがって従事している場合は、主に従事している分野を）一つだけお選びください。

- ① 第一次産業（農業・林業・水産業）
- ② 第二次産業（鉱業・製造業・建設業）
- ③ 第三次産業のうち卸売・小売業
- ④ 第三次産業のうち運輸・通信業
- ⑤ 第三次産業のうちサービス業
- ⑥ 第三次産業のうち上記以外（電気・ガス・水道業、金融・保険業、政府サービス等）
- ⑦ 無職

(5) あなたには、現在、お子様が何人いらっしゃいますか。

- ① 0人
- ② 1人
- ③ 2人
- ④ 3人
- ⑤ 4人以上

あなたのお子様についてうかがいます。《お子様がいらっしゃらない場合は(12)へお進みください。》

注：お子様が複数いらっしゃる場合には、お一人についてお答えください。

宮城県では、現在、住んでいる地域によって受検できる全日制課程普通科の県立高校が限られていますが、平成22年度の高校入試からはこうした制限(学区)をなくして県内のどの県立高校でも受検できるようになります。これを前提に以下の質問にお答えください。

(6) 《高校生以下のお子様がいらっしゃる方のみお答えください。》

お子様が高校に進学する際に、最も重視した(い)ことは何ですか。あなたの考えに近いものを二つ以内でお選びください。

- ① 高校卒業後の進学や就職の問題
- ② 子ども本人の学力
- ③ 日々の通学(通学時間、安全性)
- ④ 部活動や学校生活の充実度
- ⑤ 授業料や通学費など高校進学にかかる費用
- ⑥ その他

(7) 《高校生のお子様がいらっしゃる方》

お子様の高校までの通学時間はどのくらいですか。次のうちから一つだけお選びください。

《中学生以下のお子様がいらっしゃる方》

お子様が、高校に進学する場合、許容できる通学時間はどのくらいですか。次のうちから一つだけお選びください。

- ① 片道30分以内
- ② 片道1時間以内
- ③ 片道1時間半以内
- ④ 片道2時間以内
- ⑤ 片道2時間超

(8) 《高校生以下のお子様がいらっしゃる方のみお答えください。》

お子様には、どの学校段階まで進学させたいとお考えですか。

- ① 中学校
- ② 高校
- ③ 高等専門学校(宮城高専・仙台電波高専等)
- ④ 専門学校(専修学校・各種学校)
- ⑤ 短大・大学
- ⑥ 大学院

(9) (8)の質問では、なぜそのようにお考えになりましたか。その理由について、次の選択肢の中から、あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。

- ① 子ども本人が希望
- ② 子どもの将来の就職などを考えて
- ③ 選択した学校段階以上には必要ないと思うから
- ④ 我が家の家計を考えて
- ⑤ その他

(10) 《高校生以下のお子様がいいらっしゃる方のみお答えください。》

お子様が、いま学科を選べるとしたら、あるいは進学させるとしたら、どのような課程・学科に進学させたいですか。現時点であなたの考えに近いものを一つだけお選びください。

課 程		学 科	
全日制	通常の課程	普通科	国数英社理などの普通教科を主として学ぶ学科
定時制	夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程	専門学科a(職業系)	農業、工業、商業等の職業に関する教科を主として学ぶ学科
		専門学科b(職業系以外の学科)	理数科、英語科、美術科等、職業系以外の専門教科を主として学ぶ学科
通信制	通信による教育を行う課程	総合学科	普通教科・専門教科(職業に関する教科)から自分の進路希望等に沿って、授業科目を選択して履修する学科

- ① 全日制課程 普通科
- ② 全日制課程 専門学科 a
- ③ 全日制課程 専門学科 b
- ④ 全日制課程 総合学科
- ⑤ 定時制課程
- ⑥ 通信制課程

(11) 《(10)の質問で②全日制課程 専門学科 a、③全日制課程 専門学科 bと回答した方のみお答えください。》専門学科のうち、どの学科で学ばせたいですか。学ばせたいと考えている学科を 一つだけお選びください。

- | | |
|------------|---------------|
| ① 農業に関する学科 | ⑦ 情報に関する学科 |
| ② 工業に関する学科 | ⑧ 福祉に関する学科 |
| ③ 商業に関する学科 | ⑨ 理数に関する学科 |
| ④ 水産に関する学科 | ⑩ 外国語に関する学科 |
| ⑤ 家庭に関する学科 | ⑪ 音楽・芸術に関する学科 |
| ⑥ 看護に関する学科 | ⑫ 体育に関する学科 |

これからの県立高校教育についてうかがいます。

- (12) 高校の学科には、普通科、専門学科、総合学科の3学科がありますが、これからの本県の高校教育においては、これら3つの学科のうち、どの学科の割合を増やしていくべきと思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。

普通科	国数英社理などの普通教科を主として学ぶ学科
専門学科a(職業系)	農業、工業、商業等の職業に関する教科を主として学ぶ学科
専門学科b(職業系以外の学科)	理数科、英語科、美術科等、職業系以外の専門教科を主として学ぶ学科
総合学科	普通教科・専門教科(職業に関する教科)から自分の進路希望等に沿って、授業科目を選択して履修する学科

- ① 普通科
- ② 専門学科 a
- ③ 専門学科 b
- ④ 総合学科
- ⑤ どちらともいえない

- (13) 中学・高校の6年間で一貫性をもたせた体系的な教育方式(中高一貫教育)があります。この中高一貫教育は、現在、連携型、併設型、中等教育学校の3タイプで展開されています。この中高一貫教育校について、どう思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。

連携型	高校と中学校が連携し、接続した教育を提供するタイプ
併設型	高校に中学校を併設し、接続した教育を提供するタイプ
中等教育学校	一つの学校として中学校・高校に当たる6年間の一体的な中高一貫教育を提供するタイプ

- ① 連携型の中高一貫教育校を増やすべき
- ② 併設型の中高一貫教育校を増やすべき
- ③ 中等教育学校を増やすべき
- ④ 増やす必要は感じない
- ⑤ どちらともいえない

- (14) 農業高校や工業高校、商業高校などの専門高校、総合学科高校では、インターンシップ(就業体験等)や職業情報の的確な提供などに取り組んでいるところですが、豊かな勤労観・職業観を涵養するため、普通科においても、同じように取り組んだ方がよいと思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。

- ① 全ての普通科高校においても取り組むべき
- ② 普通科高校の全ての生徒ではなく、高卒後、就職を希望する生徒を対象に取り組むべき
- ③ 進学先でも学習する機会があるので、普通科高校は進学に向けた学習に集中すべき
- ④ その他

- (15) 県立高校の入学者選抜制度（入試制度）についてうかがいます。現在の制度は、(a) 一般入試、(b) 推薦入試、(c) 第二次募集、と3回実施する形で行われています。これからの入学者選抜制度は、どのようにすれば良いとお考えですか。あなたの考えに近いものを、一つだけお選びください。

一般入試	中学校から提出された調査書と学力検査による入試
推薦入試	中学校長からの推薦により中学校から提出された推薦書・調査書と面接や作文による入試
第二次募集	入学募集定員に満たない学校のみが実施する入試

- ① 現在と同じ一般入試と推薦入試と第二次募集の3回が良い
- ② 一般入試、推薦入試の2回が良い
- ③ 一般入試、第二次募集の2回が良い
- ④ 一般入試の1回が良い
- ⑤ その他

- (16) 各県立高校では、教育の質の向上に向け、地域との連携に取り組んできております。県立高校が地域との連携をより深めていくために、最も重要なことは何だと思えますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。

- ① 家庭や地域社会の県立高校への理解
- ② 県立高校の地域への情報発信・情報開示
- ③ 高校と地域社会・企業等を結ぶ調整機関の存在
- ④ その他

これまでの県立高校改革の取組についてうかがいます。

本県では、生徒の多様な個性や特性に対応した魅力ある高校づくりとして新しいタイプの学校づくりに取り組んできました。平成23年度以降の県立高校における学校づくりの参考とするために、これまでの高校改革に関する取組について、以下の質問にお答えください。

(17) 本県では、中高それぞれで行なわれている教育の課程を調整し、6年間で、一貫性を持つ体系的な教育を行う「中高一貫教育校」を作ってきましたが、この取組についてどう思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。また、それを選んだ理由についてお書きください。

- ① とても評価する
- ② 評価する
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり評価しない
- ⑤ 評価しない
- ⑥ わからない

(18) 本県では、普通教科・専門教科（職業に関する教科）の中から自分が希望する授業科目を選んで学習できる総合学科高校を設置してきましたが、この取組についてどう思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。また、それを選んだ理由についてお書きください。

- ① とても評価する
- ② 評価する
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり評価しない
- ⑤ 評価しない
- ⑥ わからない

(19) 本県では、午前から夜間までの時間帯のうち、自分の希望する時間帯を選び学習できる昼夜間開講型定時制高校を設置してきましたが、この取組についてどう思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。また、それを選んだ理由についてお書きください。

※定時制高校は、1日4時限（1時間は45分から50分）、一週間に20時限程度を勉強し、4年間で卒業することを基本とした時間割となっていますが、昼夜間開講型定時制高校では、午前部・午後部・夜間部など複数の部で授業を受けることで、一週間に30時限程度学習し、3年間で卒業することもできます。

- ① とても評価する
- ② 評価する
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり評価しない
- ⑤ 評価しない
- ⑥ わからない

(20) 本県では、多様な教育活動やきめ細かな学校運営をするためには一学年6学級(240人)程度が望ましい学校規模であると考え、生徒減少に対応して学科のバランスや地理的状况を勘案しながら高校の統合や再編を進めてきましたが、このような生徒数の減少に対応した学校再編の取組についてどう思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。また、それを選んだ理由についてお書きください。

- ① とても評価する
- ② 評価する
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり評価しない
- ⑤ 評価しない
- ⑥ わからない

(21) 本県では、学校評議員制度※や学校の自己点検・自己評価の充実を進めるとともに、学校施設の地域開放や学校自由見学日の設定など、「開かれた学校づくり」を推進してきました。この取組の成果についてどう思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。また、それを選んだ理由についてお書きください。

※学校評議員制度

学校と保護者・地域住民相互の意思疎通や協力関係を高めるための制度。委員は校長に意見を述べる権限を持ちます。

- ① とても評価する
- ② 評価する
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり評価しない
- ⑤ 評価しない
- ⑥ わからない

(22) 本県では、これまで、全ての県立高校の男女共学化を進めてきました。この取組についてあなたは どう思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけお選びください。また、それを選んだ理由についてお書きください。

- ① とても評価する
- ② 評価する
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり評価しない
- ⑤ 評価しない
- ⑥ わからない

(23) 調査へのご協力ありがとうございました。最後に、これからの県立高校について何かご意見がございましたら、ご自由にお書きください。